

鈴木有郷牧師 説教

## 11/1/09 「捧げることの意味」 ヨハネ6:4-14

主イエスがパン5つと魚2匹で5000人の人々を養ったというエピソードは良く知られています。先日の愛修会でも、そのエピソードに触れたので、覚えておられる方もおられると思います。

その時のテキストはマルコによる福音書でしたが、今日のテキストは、同じエピソードを扱いながら、マルコにはない点を強調しているヨハネによる福音書を取り上げます。

荒れ野で主イエスが教えをのべられておられると、それを聞こうと5000人もの人が集まって来たというところからこの記事は始まります。

主イエスは群衆がお腹をすかしているのを見ると、弟子達に何か食べ物を与えたいのだが、と相談されます。しかし弟子達はとりあいません。そんなことができる筈はないからです。先生、そんなことをするには200デナリは確実にかかりますよ、と言います。200デナリといえば、現在の貨幣価値では1万ドル以上でしょう。

ところが、ここに一人の少年が登場します。これがヨハネの福音書にしかない点です。この少年は、イエスの命令を快く思わなかった弟子達と対称的に、自分が持っていたパン5つと魚2匹を主イエスに素直に差し出したのです。

当時は、一般の人々は常にひもじさを抱え、明日の食事のことを心配しなければならない厳しい状況に置かれていました。

ここで注目すべきことは、彼等と同じひもじさを抱えていた一人の少年が、自分の食べ物として大事に懐にしまっていたパン5切れと干し魚2匹を惜しげもなく主イエスに差し出したという点です。

考えてみると、これは実に凄いことだと思います。普通では、食べ盛りの少年がそんなことをする筈がありません。

私がこの物語を読んで心を打たれるのはそれだけではありません。パン5つと魚2匹は、この群衆には余りにも少なすぎました。少年の行為は弟子達の笑いを誘ったかもしれません。「こんなに大勢いるんだよ。」そんな声が聞こえてきそうな気がします。

しかし主イエスは、少年が差し出したパンと魚を大切に、大切に受け取り、人々に配り始められたのです。人々は満腹になり、残りが12の籠に一杯になった、とヨハネ福音書は記しています。

日米合同教会は11月を stewardship month と定めています。Stewardとは英語で奉仕する人のことです。キリスト教において Stewardship とは、キリストの体である教会に奉仕するという意味に使われています。

ですから、Stewardship month では、教会を財政的に支えることの大切さが強調されます。しかしそれだけではありません。献金は勿論、私達の時間や能力やその他私達の持てるすべてを、JAUC がよりしっかりした信仰共同体となるために捧げようとあらためて心に誓い合う。これが stewardship month に込められた意味です。

私達の教会の規模は小さく、メンバーも高齢化しており、大きな教会に比べて年間の予算は決して多いとは言えません。建物も老朽化しています。その意味で、私達の教会は5つのパンと魚2匹のようなものかもしれません。

しかしこの少年は教えています。そんなことが問題なのではないと。重要なのは、私達が自分の持てるものを主イエスに誠実に、感謝をもって捧げる心意気があるかどうかということだと。

この少年が私達に教えてくれるのは、それだけではありません。私達の捧げものを主イエスは大切に、本当に大切に受け取り、祝福し、それを12の籠に余る程に増やしてくださる。これがこの少年のエピソードから私達が読み取るべきもう一つの点です。

ですから、喜んで私達のパンと魚を主イエスに差し出そうではありませんか。志を共にしようではありませんか。決意を新たにしようではありませんか。

そのように私達が心をつににする時、有限なる私達が思ってもみないような素晴らしい可能性が、私達の目の前に開かれるに違いありません。